

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400477	
法人名	有限会社しらゆり	
事業所名	グループホームしおさい風の詩	
所在地	いわき市久の浜町西2丁目7-8	
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模施設ならではのきめ細かなサービスで、個々のニーズにできる限り対応している。 ・常に寄り添い、共に生活している意識で信頼関係を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念をもとに、やさしさや思いやりの気持ちで接し、利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしく穏やかな気持ちで暮らせるように取り組んでいる。 利用者が健康で元気で毎日を過ごせるよう、食べる楽しみを味わってもらえるよう惜しみなく季節の食材を使い、品数も多くバランスよい食事をしてもらっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地域の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果 [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・出勤時に事務所に掲げてある基本理念を確認する。	職員は理念を理解し、利用者の性格を知り、その人に合った言葉使いや話し方をするようにしている。自分の思いを伝えることが難しい人には、職員同士お互いにフォローし合い、対応するようにしている。否定しないで受け入れ尊重し、安心して過ごせるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・出勤時に事務所に掲げてある基本理念を確認する。	小学校の支援学級が音楽発表会やバレンタインデーにはプレゼントを持ってきてくれるなど交流している。地域の方の庭先の花を見に行ったり、摘ませてもらっている。事業所の行事に、区長を通して地域の方に参加してもらえるように考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・出勤時に事務所に掲げてある基本理念を確認する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・活動報告について幅広い意見やアドバイスをいただき実践につなげている。	区長から災害時の避難場所の情報や、避難方法・避難の時期、備蓄などについて防災時の助言を貰っている。福祉センターの所長から、利用者と家族のかかわりについて話があり、状況を見ながら相談し対応するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議には必ず出席していただいている。 ・また中地域ケア会議の一員として活動している。	地域包括ケア会議主催の認知症教室に参加し、認知症の方への声かけ模擬体験について、地域の小学生に話をしている。市から台風後に連絡があり、被害状況の報告や、アンケートに答えて支援物資を調達してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間帯や職員が手薄な時間を除いては施錠しない。 ・職員会議等で虐待につながる行為をしていないか話し合いをしている。	認知症が進まないよう、身体拘束はしないことを基本にしている。一人歩きする方には、職員と一緒に寄り添い安全な場所を歩き、気分を換えたりしている。言葉の拘束は、職員同士互いに気づいた時は、フォローし合って拘束をしないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議で勉強する機会を設けている。 ・入浴時にポディチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・制度の仕組みを理解し、状況に応じてアドバイス出来るようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に十分に説明し、理解同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関にご意見ご要望箱を設置している。 ・面会時などにご家族とのコミュニケーションを密に取り ・ご意見をいただけるよう配慮している。	家族の方から、入居前より穏やかになり、これまで見たことのない笑顔も見られて嬉しいと、感謝の言葉をもらっている。家族が訪問してくれた時は、利用者と職員が一緒に話をして、意見や要望をもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・夜勤の時や休憩時間などにもゆっくりと話す時間を確保している。 ・業務内容もその都度意見を取り入れ、柔軟に対応してより働きやすくなるよう努めている。	日ごろから職員との話し合いを大切にし、意見を出してもらえるようにしている。出された意見は、実際に取り組んでもらい、運営に活かすようにしている。資格取得したい方には、受験費用を負担したり勤務時間を調整したりして、ケアの向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・役職や責任のある仕事を任せることで、手当として支給している。 ・スキルアップの為の支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得のためのソフト変更や助成金を設けている。 ・外部の研修会にも交代で参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修会に参加し、交流会や親睦会などにも積極的に参加させ、情報交換の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前にご家庭を訪問し、じっくりとお話しをうかがった後、いろいろとご提案させて頂き不安をなくせるように配慮します。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の負担を少しでも軽減できるよう、いろいろなケースでのご提案をさせていただきます。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご家庭を訪問した時、家庭環境も含め、本人とご家族の要望にどのようなサービスができるのか十分に話し合いをする。 ・他のサービスの利用も提案させていただく。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ホームでの生活の中で、できる範囲での協力を求め、役割を持つことで共に助け合いながら生活している意識を持てるように配慮する。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月に1度は必ず利用料を支払いながら面会にきていただき、ともに支えあう立場を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族や友人との面会なども、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。 ・予約制ですが、一緒に食事ができるようご家族の食事の提供もしている。	入居時に、本人・家族と話し合い、馴染みの場所や友人関係を聞き、希望があれば出かけるようにしている。利用者の希望で、馴染みの化粧品店や美容室、洋品店に職員と一緒に出かけている。電話がかかってきたときは、自由に話してもらおうようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士でも助け合えるような関係性を大事にしている。危険が伴わない程度で見守りをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も、時折訪問や面会に伺い、ご家族へのアドバイス等もさせていただきます。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の生活歴やこれまでの環境等を十分理解し、介護計画に取り入れている。	思いの伝えにくい人には、一緒にテレビを見ているときの何気ない一言から、思いを把握するようしている。把握したことは、職員間で共有しケアにつなげている。行きたいところや食べたいものなど、要望があれば叶えられるようしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族や、これまでに利用されてたサービスとの情報を共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員が常に寄り添うことで、一人ひとりのペースをつかみ、無理強いせずリラックスして過ごせるよう配慮している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員会議で個別のケアについて話し合い、現状に沿った目標を立てている。 ・毎日の申し送りの時なども、常に利用者様の変化や疑問等も話し合っている。	地域のなかでその人らしく暮らせるよう、一人ひとりに合った、必要な支援を盛り込んだ、個別の具体的な介護計画を作成している。身体状況や性格に応じて、持っている能力を維持できるようにしている。利用者の状態に応じて柔軟に見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録は書きやすく見やすくなるよう工夫している。 ・職員会議や申し送りでも、情報の共有が十分であるか再確認している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族の負担を軽減できるよう取り組んでいる。 ・病院付き添い(一部有料)、買い物代行、自宅への送迎等。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事や活動に積極的に参加している。 ・町内の資源を最大限活用し、地域の人達とのふれあいの場を作っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・通常は往診で対応しているが、治療方針や服薬の変更等状況が変わったときは、本人や家族に連絡し、受診してもらい主治医の説明を聞いて同意を得ている。	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。入居時は、かかりつけ医に受診していたが、協力医療機関に変更する方もいる。専門科目は、家族対応となっているが、職員が代行することもある。受信結果は、家族と共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・往診・受診の際、適切に医師に状態を伝えられるよう前もって準備している。 ・医療機関との連絡委記録を作成し、職員が情報共有できるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・協力医療機関に任せてはいるが、どのような状況にも対応できるように、医療機関との関係を密にしている。 ・入院中も担当者会議を通して、退院に向けて対策を検討している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	での対応ができなくなった場合、またはそうなる可能性がある段階で、対策を講じている。 ・本人やご家族の希望に添えるよう対応している。	入居時に重度化や終末期について説明し、本人・家族と話し合い理解してもらっている。終末期には、家族と主治医・看護師と連携し、適切な対応ができるようにしている。職員は、できることを精一杯ケアし、安心してもらえるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルの作成や訓練をしている。 ・職員全員が普通救命講習修了書を取得している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・ホーム単体の訓練だけでなく、地区の防災訓練にも参加している。	消防署の協力を協力を経て訓練を行い、職員会議のなかで日常的に避難訓練のシミュレーションをしたら、とのアドバイスをもらっている。地区の、防災訓練に参加を予定している。年間を通して、避難訓練に全職員が参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・理念にも掲げているが、常に人生の先輩として敬い、慈愛の心をもってケアに取り組んでいる。	利用者の性格を理解し尊重しながら、個人差があるので言葉使いや声かけを工夫している。同じ話を何回も繰り返す方にも、否定しないで受け入れ耳を傾けるようにしている。利用者同士で、プライバシーを損ねるようなときは職員が間に入り、対応するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・様々な場面で選択の機会を持てるよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々特別な事をするのではなく、自主的に「～しよう」の言葉を引き出せるよう環境の整備に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問美容サービスを利用しているが、かかりつけの美容室でのパーマや白髪染などの送迎もしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理や片付けなどに参加してもらったり、献立リクエスト等も受け付け献立に取り入れている。	利用者の好みや季節の食材を用いて、食べる楽しみを感じてもらえるメニューづくりをしている。おいしく作り、楽しく食べてもらうことが、身体機能や精神的な落ち着きをもたらすものと考えている。職員と一緒に、食事を楽しみ食欲を高めるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分の摂取量は常に記録し、足りない部分は補えるようにしている。 ・また普通摂取難しい場合は、トロミ材の使用など工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、居室にて口腔ケアをしている。 ・状態に応じて職員がお手伝いしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・尿意便意が鈍くなっても、声掛けやトイレ誘導することで失禁を減らすよう取り組んでいる。	入居時はオムツだった方が、職員の根気強い声かけ誘導することで、リハビリパンツや布パンツになり、快適に過ごせている。失敗した時は居室で交換・清潔にし、プライドを守るようにしている。自立している方は、自由にトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便観察や記録により状態を把握し、便秘にならないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・基本的に曜日は決まっていますが、柔軟に変更もしている。 ・夏限定ですが、シャワー対応もしている。	その人の状態に合わせて入浴できるようにしている。入浴を戸惑う人には、お風呂と言わないで誘導したり、その人の気分に合わせて入浴してもらっている。脱衣所と浴室の温度差をなくし、暖かくしている。車椅子のまま入浴でき、体に負担にならないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夕食後はなるべくゆったりとした時間を過ごしてもらい ・自然な入眠につながるよう、個別に対応している。 ・無理に寝かしつけるようなことはしない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬ファイルを作成し、職員全員が把握している。 ・担当責任者をおくことで、状況を確認し、医療機関との円滑な連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・趣味や特技を発揮できる環境を整え、生き生きと活動できるようにしている。 ・レクリエーション、または仕事として雑巾縫いや草引き、家庭菜園のお手伝いなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・積極的に散歩や地域の商店へ出かけ、地域の方々との交流が持てるようにしている。 ・行事としては、お花見、外食、紅葉狩り等。	暖かい日には、散歩やベランダで過ごし、庭で野菜作りを楽しんだり、外に出る機会を多く持つようにしている。事前に車いす対応トイレや、道路状況や移動にかかる時間を計ったりし、安全・安心して出かけられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人での金銭管理が難しいケースも多いが、可能な限り対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の取次ぎや、切手などの買い物や投函などお手伝いしている。 ・携帯電話の持ち込みも可能で、実際使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・様々な活動ができるよう、用途に応じて場所を使い分けている。 ・季節ごとのお花を飾ったりしている。	季節の感じられる作品が飾られている。大きな日めくりカレンダーがあり、気づいた利用者がめくりその日が解るようにしている。感染症対策で、マスクや消毒液の種類を多くし、外部の方の訪問はできるだけ外で対応するようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・こたつスペースもあり、気の合ったものが過ごせる環境がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、または泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	・居室には、自分の愛用品などを持参してもらい、家族の写真を飾ったりしている。 ・自分の作った作品等も飾っている。	居室の入り口には、花の絵や作品が飾られ解るようにしている。いただいた花は、各居室に飾るようにしている。掃除は、できる方は職員と一緒にし、整理整頓し清潔にしている。衣替えは、家族の方や職員と一緒にし、本人に解るようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーは勿論のこと、トイレの表示や居室入り口の目印等、自分で行動できるよう配慮している。		